

市民消火隊・ミニポンプ隊のための 事故・ヒヤリハット事例集



市民消火隊・ミニポンプ隊の活動は、地域を守ろうとする崇高な理念に基づくものですが、災害現場には多くの危険が潜んでいます。今回、国内の災害活動等において実際に起きた事故事例をまとめましたので、同様の事故が発生しないよう活動の参考としてください。

目次

目次	2
----	---

事故・ヒヤリハット事例集

火災	3
風水害	8
訓練	9
その他	10

本資料は、消防団員等公務災害補償等共済基金が作成した「消防団員の事故・ヒヤリハット事例集」をもとに、防災市民組織の活動に参考となる事例を抜粋、整理したものです。

危険要因の学習や危険予知訓練の教材など、市民消火隊・ミニポンプ隊が安全に活動するための資料としてご活用下さい。

なお、掲載されている情報等の著作権は、消防団員等公務災害補償等共済基金が有しているため、一部または全部を、本来目的以外で利用（複製、再配布、販売、引用、流用等）しないようにしてください。

2021年4月
防災危機管理課

火災

事例 1

木造平屋建物火災に出動し、筒先担当員として延焼建物に向かい放水作業中、急激に炎が吹き返し、その火炎により負傷した。



結果 手及び顔面火傷

▶▶▶ 対策

木造建物火災は早期に建物全体に炎が伝わり、開口部から火炎が激しく噴出するので、火災防御は延焼建物の開口部を避けて放水する。

火災

事例 2

2 階建て住宅に出動し、玄関の戸を開けた瞬間、火が噴出した。



結果 負傷なし

▶▶▶ 対策

炎上建物の扉を開ける場合は、扉に隠れて噴出する火炎から身を守る。注水で扉の全面を覆って火炎の噴出を防止する。

火災

事例3

早朝の住宅火災に出動し、筒先担当員として放水作業中、2階部分に回った火を消そうと放水した際、出火建物の反対側からも放水がされていたため、屋根瓦が飛来し、頭部をかすめた。



結果

負傷なし（ヘルメット装着のため）

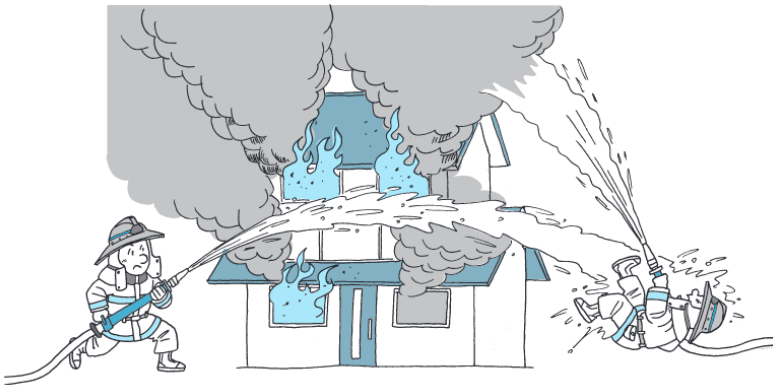
▶▶▶ 対策

火災や周囲の状況変化を注視し、危険の兆候を先取りして部署位置を移動する。消火活動時は、必ずヘルメットを着装する。

火災

事例4

建物火災に出動し、2階建て住宅の1階東側から放水をしていた際、他の隊との意思の疎通がうまくとれず、反対側に部署していた隊の放水を直に受け転倒した。



結果

負傷なし

▶▶▶ 対策

全体の状況を見ながら部署位置を決める。火災や周囲の状況変化を注視し、危険の兆候を先取りして部署位置を移動する。

火災

事例 5

木造 2 階建ての共同住宅の火災に出動し、消防団員がホース延長のため火災建物に近づいたところ、熱と水分で膨張したモルタルが剥離して落下し、保安帽を直撃した。



結果 負傷なし

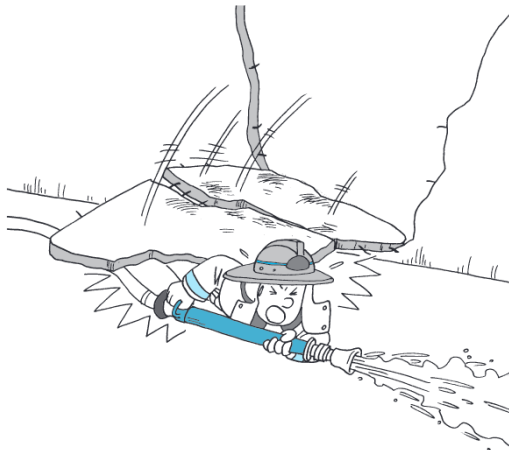
対策

耐火性の化粧モルタルなどは剥離落下する危険性があるので、亀裂、膨らみ等が生じたら直ちに避難する。建物火災は、常に倒壊の危険性があるので、できるだけ建物周囲での活動を避ける。

火災

事例 6

木造 2 階建て店舗の火災に出動し、消火活動中、崩壊した壁の下敷きとなった。



結果 肩、背部打撲

対策

火災による柱等の保持力低下のための、はく離落下である。崩壊前に壁が水分を吸収して重みに耐えきれず、膨らんで崩壊するので、亀裂、膨らみ等周囲の状況を確認して行動する。

火災

事例7

夜間に発生した建物火災に出動し、伝令のため現場付近を走っていた際、周囲が暗く何本ものホースが入り乱れていたため、ホースにつまづき転倒した。



結果

右第5指中足骨骨折

対策

夜間の災害現場は見通しがきかず多くの危険要因が存在するため、照明器具を用いて足元など周囲の安全確認を確実にしながら行動する。

火災

事例8

建物火災に出動し、火災現場で伝令のため狭い通路を走って角を曲がった際、角の向こう側から来た隊員と出会い頭に衝突した。



結果

負傷者なし

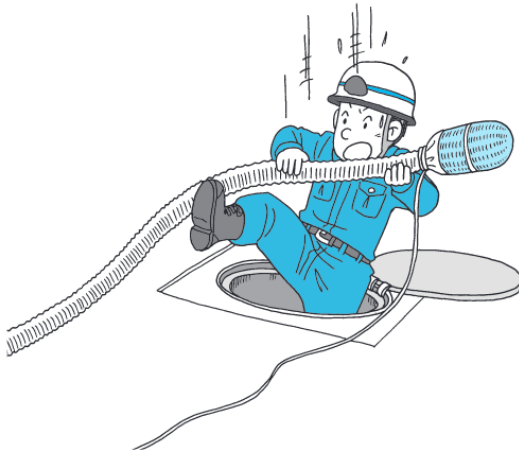
対策

前方が見通せない場所では、ゆっくりと安全を確認しながら行動する。

火災

事例 9

建物火災に出動し、現場到着後、水利部署するため地上面の防火水槽に吸管を入れようと後ろ向きで勢いよく展開していた際、防火水槽の蓋が開いてたため防火水槽に転落した。



結果 負傷者なし

▶▶▶ 対策

水利が見える姿勢で作業を行う。一般人の落下にも注意する。

火災

事例 10

木造 2 階建て店舗の火災に出動し、ホース延長作業中、目の前に垂れ下がっていた電線を手で除けた際、電線が通電している状態であったため火傷した。



結果 左手掌部電撃症

▶▶▶ 対策

電線が垂れ下がりがある場合には、電線に接触しないよう板等で遮へいをして作業する。速やかに電力会社へ通報し、電源遮断を要請する。

風水害

事例1

台風接近に伴い住宅地付近の用水路で土のう積みをしていた際、周囲が暗く、大雨により足場が軟弱であったため、足を踏み外し用水路内に転落した。



結果 負傷者なし

対策

作業危険エリアを明示して活動する。安全監視員を配置する。

風水害

事例2

河川が増水し、膝上まで冠水した橋の上を住民の避難誘導に向かうため歩いていた際、橋の上の水流が強く、足もとが滑り、流されそうになった。



結果 負傷者なし

対策

避難誘導経路は、他の安全なルートを選定する。緊急やむを得ない場合は、安全確保用ロープを展張、かつ命綱を必ず装着して2名以上で行動する。

訓練

事例 1

ポンプ操法訓練中、ホースを急に持ち上げたため、腰部に違和感を覚え、動けなくなり、その場に倒れこんだ。



結果 腰椎捻挫

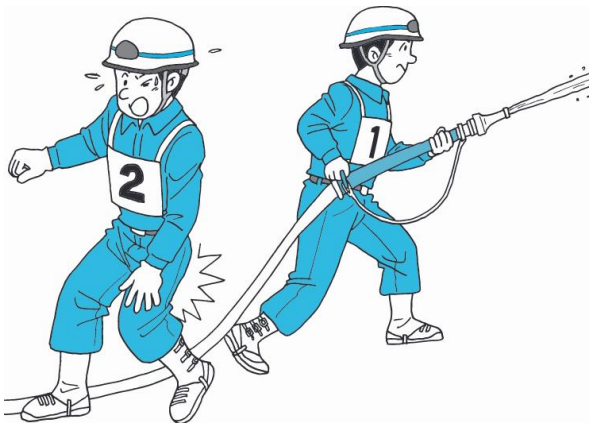
対策

訓練開始前後には、必ず隊員の体調を確認し、準備運動を入念に行う。重量物を持ち上げるときは、腰を降ろし、背筋を伸ばして持ち上げる。

訓練

事例 2

ポンプ操法の訓練において、方向転換をして走り出した際、左足ふくらはぎに痛みを感じた。



結果 左腓腹筋断裂

対策

スピードを重視した不自然な動きや無理な動作をしない。隊員は、訓練に耐え得る基礎体力をつけるとともに訓練の前後には必ず入念な準備運動を行う。

その他

事例1

ホースの点検をするため、消火栓にスタンドパイプを結合して放水した際、スタンドパイプが消火栓から離脱して飛び跳ねた。



結果 負傷者なし

▶▶▶ 対策

スタンドパイプを結合したときは、回したり引っ張ったりして確実に結合されたことを確認する。放水を開始するときは、徐々にスピンドルを開ける。

その他

事例2

夜間で気温が下がっており、放水した水で路面が凍結し、転倒しそうになった。



結果 負傷なし

▶▶▶ 対策

アイスバーン状の路面を走行する場合は、歩幅を狭くして一歩ずつ踏みしめるように走行する。